

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —	
思・判	： 社会的な思考・判断
技・表	： 観察・資料活用の技能・表現
知・理	： 社会的事象についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)		
3 ・ 4 学 年	(3)ア 1	①	資料から、家庭での水の使用量が会社・商店の使用量の7倍になっていることを読み取ることができる。	技・表	70.0	60.9	
		②	資料から、水の使用量の変化と人口の変化の関連を読み取ることができる。	技・表	80.0	88.4	
	(3)イ 2	(2)	家庭でできる水の節約のための取組を考えることができる。	思・判	80.0	89.4	
	(3)ア 2	(1)	燃えるゴミを処理するための施設名(清掃工場・クリーンセンター等)を理解している。	知・理	70.0	81.4	
		(2)	資料から、清掃工場(クリーンセンター等)の仕組み(働き)を読み取ることができる。	技・表	85.0	74.1	
		(3)	回しゅうボックスを設置している理由を指摘することができる。	思・判	70.0	88.8	
	(5)ウ 3	(1)	①	適切な資料を選択し、正確に読み取ることができる。	技・表	80.0	48.7
			②	適切な資料を選択し、正確に読み取ることができる。	技・表	80.0	84.8
			③	適切な資料を選択し、正確に読み取ることができる。	技・表	60.0	75.8
		(2)	用水路工事によって、地域の人々の生活が向上したことを考えることができる。	思・判	70.0	69.2	
	(6)イ 4	4	(1)	およその位置を、八方位を用いて指摘することができる。	技・表	50.0	44.4
			(2)	縮尺を使って実際の距離を導き出すことができる。	技・表	70.0	54.5
(3)			警察署を表す地図記号を知っている。	知・理	70.0	50.3	
5		(1)	地形図から、土地の断面を読み取ることができる。	技・表	70.0	56.0	
		(2)	青森県の代表的な半島、平野、山の位置と名前を知っている。	知・理	60.0	80.4	
		(3)	青森県の代表的な農産物とその生産地を知っている。	知・理	60.0	75.4	
		(4)	地形図から、青森県の地形の特徴を指摘することができる。	思・判	50.0	39.7	
(5)ア 6	(1)	(1)	おばあさんが子どもの頃使っていた道具(かま)の用途を理解している。	知・理	90.0	83.0	
		(2)	資料から道具の変化について読み取ることができる。	技・表	90.0	71.0	
	(3)	①	道具の変化による生活の変化(電化製品の増加)を関連づけて考えることができる。	思・判	80.0	90.2	
		②	道具の変化による生活の変化(便利になってきた)を関連づけて考えることができる。	思・判	90.0	93.3	
5 学 年	(1)ウ 7	(1)	資料から、稲作の工夫(耕地整理による農作業の効率化)を読み取ることができる。	技・表	80.0	78.3	
		(2)	よりよい米をつくるための工夫(品種改良)を理解している。	知・理	60.0	39.7	
		(3)	2枚のカードに共通する稲作の工夫の目的(味がよく安全な米づくり等)を考えることができる。	思・判	60.0	86.2	
	(1)イ 8	(1)	資料から、漁獲量の変化を読み取ることができる。	技・表	80.0	46.2	
		(2)	漁獲量の変化と県の取組との関連を考えることができる。	思・判	50.0	46.6	
		(3)	栽培漁業で働く人々の取組の目的を理解している。	知・理	60.0	62.0	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号		問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内			
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡	
1	(1)	① 市で使われた水の量の割合	70.0	61.7	62.4	53.0	62.3	62.3	71.5	57.3
		② 水の使用量と人口の関係	80.0	89.7	90.3	82.8	88.9	88.5	92.4	87.5
	(2)	家庭でできる水の使い方の工夫	80.0	89.2	89.6	84.2	91.5	91.7	92.7	90.7
2	(1)	燃えるゴミを処理する施設名	70.0	77.4	77.2	80.5	86.1	87.2	88.0	84.1
	(2)	清掃工場の仕組み（働き）	85.0	73.4	74.0	66.0	74.2	79.7	72.5	69.8
	(3)	回しゅうボックス設置の理由	70.0	88.9	89.0	87.9	88.1	88.5	89.6	86.9
3	(1)	① 適切な資料の選択と正確な読取	80.0	48.4	48.2	50.7	44.3	41.9	41.5	48.2
		② 適切な資料の選択と正確な読取	80.0	84.3	84.7	78.6	86.1	86.1	85.1	86.5
		③ 適切な資料の選択と正確な読取	60.0	75.7	75.9	73.5	78.0	79.6	79.4	75.7
	(2)	地域の人々の生活が向上した理由	70.0	66.2	66.1	68.2	71.5	73.8	70.6	69.8
4	(1)	八方位を用いた位置の指摘	50.0	45.4	45.6	43.7	42.0	42.1	43.4	41.2
	(2)	縮尺を使った距離の算出	70.0	55.2	55.5	51.6	57.0	56.8	57.6	56.8
	(3)	警察署を表す地図記号	70.0	46.7	46.3	51.2	55.6	63.2	49.7	51.3
5	(1)	土地の断面の読取	70.0	54.9	55.5	47.4	56.1	56.4	60.1	53.6
	(2)	青森県の代表的な半島、平野、山	60.0	77.1	77.3	74.0	82.5	82.6	84.8	81.2
	(3)	青森県の代表的な農産物と生産地	60.0	74.2	74.6	69.3	77.7	76.7	83.9	75.5
	(4)	青森県の地形の特徴	50.0	35.2	35.1	35.8	49.2	52.0	54.1	43.9
6	(1)	昔の道具（かま）の使い方	90.0	82.4	82.8	76.3	83.0	84.1	84.8	81.1
	(2)	今と昔の道具の変化	90.0	69.5	69.8	66.0	74.3	75.5	69.0	75.9
	(3)	① 道具の変化による生活の変化	80.0	89.3	89.5	87.0	91.9	91.7	94.0	90.9
		② 道具の変化による生活の変化	90.0	93.0	93.1	92.1	93.9	92.9	94.6	94.5
7	(1)	稲作の工夫	80.0	77.5	77.7	74.0	80.3	77.2	81.6	82.6
	(2)	品種改良	60.0	35.5	36.2	26.0	34.8	30.9	38.9	36.5
	(3)	稲作の工夫の目的	60.0	86.3	86.5	83.3	86.4	86.0	85.1	87.5
8	(1)	漁獲量の変化の読取	80.0	47.8	47.7	48.8	45.1	47.1	40.5	45.5
	(2)	漁獲量の変化と県の取組との関連	50.0	46.9	47.2	42.3	46.5	44.4	47.8	47.8
	(3)	栽培漁業で働く人々の取組の目的	60.0	63.6	63.7	62.3	58.5	58.8	57.9	58.6
教 科 全 体			70.9	68.0	68.2	65.1	69.8	70.3	70.8	68.9

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
60.2	60.6	63.3	57.0	56.8	60.7	63.9	59.6	59.3	54.8	54.9	54.5	61.6	61.8	61.2	60.9
86.6	86.3	87.4	87.9	85.4	90.4	89.9	92.4	89.8	82.4	83.8	76.9	88.4	88.2	89.1	88.4
86.5	85.9	87.0	89.4	85.7	90.5	93.9	90.4	88.4	85.2	86.2	81.4	91.2	91.3	90.8	89.4
84.7	83.8	87.4	91.6	78.7	86.4	89.6	89.2	83.0	75.2	75.4	74.4	78.1	77.1	81.5	81.4
72.3	69.2	79.1	84.1	67.0	76.6	77.7	76.7	75.9	61.7	62.1	60.3	77.6	77.2	79.0	74.1
86.5	85.4	90.5	88.8	84.1	91.8	93.9	91.8	90.6	82.4	82.4	82.7	90.8	91.6	88.0	88.8
46.8	46.7	42.6	53.9	46.0	49.9	51.8	51.6	48.0	49.2	49.4	48.7	51.8	53.2	47.4	48.7
84.2	83.8	86.7	81.9	84.8	84.2	79.6	87.3	85.4	80.5	80.6	80.1	86.7	87.0	85.8	84.8
74.6	75.7	73.3	72.9	73.0	76.7	74.7	81.5	75.7	69.6	70.6	65.4	76.7	77.0	75.9	75.8
68.0	69.1	67.7	61.4	69.5	74.8	79.6	66.9	75.8	53.8	53.8	53.8	71.7	73.9	64.5	69.2
43.5	44.3	44.7	42.1	39.0	46.1	50.2	44.6	44.4	41.0	42.1	36.5	45.2	46.2	41.9	44.4
54.0	52.8	54.2	53.3	60.6	51.9	48.4	52.8	53.6	47.1	48.9	39.7	56.8	56.5	57.7	54.5
54.8	55.3	55.3	57.9	48.3	52.8	54.2	50.2	53.3	45.7	48.4	34.6	46.6	47.6	43.3	50.3
55.7	55.3	55.1	55.5	58.7	55.5	59.1	54.4	53.8	55.5	55.4	55.8	57.8	58.2	56.6	56.0
79.0	83.2	71.2	74.5	73.3	84.6	86.9	84.5	83.2	76.2	76.2	76.3	81.8	82.0	81.1	80.4
79.2	80.3	76.5	81.0	75.2	79.7	82.4	75.9	79.9	68.3	69.4	64.1	71.1	70.5	73.2	75.4
42.6	48.0	37.2	37.1	27.9	50.5	53.7	52.0	47.9	31.8	31.4	33.3	31.5	32.5	27.9	39.7
82.7	82.2	82.8	89.4	78.4	84.3	83.8	85.9	83.8	80.5	82.1	74.4	83.5	83.7	82.8	83.0
69.1	67.5	72.8	76.9	64.4	73.0	79.2	69.1	71.2	72.6	74.4	65.4	70.7	71.6	67.7	71.0
91.5	91.7	91.4	91.3	90.8	89.8	90.4	92.4	88.2	86.5	86.5	86.5	90.4	91.5	86.6	90.2
94.7	94.7	94.9	93.1	95.6	92.8	93.9	96.4	90.4	91.6	91.0	94.2	92.9	93.9	89.8	93.3
77.7	77.5	74.0	79.1	82.2	79.4	82.4	77.9	78.3	74.0	74.1	73.7	79.1	80.9	73.2	78.3
35.9	37.0	38.6	31.8	30.8	50.8	55.4	36.7	54.9	51.7	54.0	42.3	38.5	35.9	47.2	39.7
86.0	86.0	86.0	84.4	87.3	86.2	88.5	84.9	85.5	84.7	85.9	80.1	86.6	86.5	86.7	86.2
45.1	45.7	42.1	44.5	47.3	45.8	45.2	44.6	46.8	44.7	44.6	44.9	47.0	47.1	46.7	46.2
43.6	42.7	48.4	42.4	43.2	50.1	50.0	48.8	50.7	44.4	46.0	37.8	47.0	47.4	45.7	46.6
60.3	59.9	63.0	55.5	63.8	61.6	63.0	62.4	60.4	61.8	60.8	66.0	63.9	65.1	60.1	62.0
68.4	68.5	68.6	68.8	66.6	71.0	72.6	70.4	70.3	64.9	65.6	62.4	69.1	69.5	67.8	68.8

ウ 内容別結果の概要

内 容	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容の 通過率(%)	設定通過率 (%)
地域の人々の健康を守るための諸活動	6	1(1)②、1(2)、 2(1)、2(3)	1(1)①	80.5	75.8
地域の人々の生活や地域の発展に尽くした先人の働き	8	3(1)②、6(1)、 6(3)①、6(3)②	3(1)①	77.0	80.0
青森県の地形や産業、特色ある地域の様子	7	5(2)	4(1)、4(2)、 4(3)、5(1)、 5(4)	57.3	61.4
我が国の食料生産の様子と国民生活との関連	6	7(3)	7(2)、8(1)、 8(2)	59.8	65.0

内容別にみると、通過率の高かったのは、「地域の人々の健康を守るための諸活動」、「地域の人々の生活や地域の発展に尽くした先人の働き」である。

通過率が低かったのは、「青森県の地形や産業、特色ある地域の様子」、「我が国の食料生産の様子と国民生活との関連」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「地域の人々の健康を守るための諸活動」、「地域の人々の生活や地域の発展に尽くした先人の働き」、「青森県の地形や産業、特色ある地域の様子」である。また、下回ったのは「我が国の食料生産の様子と国民生活との関連」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
社会的な思考・判断	8	1(2)、2(3)、 6(3)①、6(3)②、 7(3)	5(4)、8(2)	75.4	68.8
観察・資料活用 の技能・表現	12	1(1)②、3(1)②	1(1)①、3(1)① 4(1)、4(2)、 5(1)、8(1)	65.3	74.6
社会的事象 についての知識 ・理解	7	2(1)、5(2) 6(1)	4(3)、7(2)	67.5	67.1

観点別にみると、通過率の高かったのは「社会的な思考・判断」である。

通過率が低かったのは、「観察・資料活用
の技能・表現」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「社会的な思考・判断」であり、同程度だったのは、「社会的事象についての知識・理解」である。また、下回ったのは、「観察・資料活用
の技能・表現」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
③ (1) ①	48.7	80	2-×(41.5) 1-×(1.5) 1-○(1.5) 無答-無答(1.0)
④ (1)	44.4	50	エ(28.5)、ア(11.0)、イ(9.0)
④ (2)	54.5	70	ウ(20.5)、エ(14.0)、ア(1.0)
④ (3)	50.3	70	交番(31.5)、工場、消防署、寺、市役所など(9.0) 無答(5.5)
⑤ (1)	56.0	70	ウ(31.5)、ア(11.0)、無答(0.5)
⑤ (4)	39.7	50	aの誤答例 エ(10.0)、オ(10.0)、ク(5.0)、ウ(4.0)、 キ(4.0)、イ(3.0)
⑦ (2)	39.7	60	無答(20.0)、新稲(6.0)、品種開発(5.0)、品種栽培(3.5) かけあわせ(3.5)
⑧ (1)	46.2	80	ウ(38.5)、イ(8.0)、エ(8.0)、無答(2.5)
⑧ (2)	46.6	50	⑤(15.5)、③(14.5)、④(7.0)、①(5.5)

- ③(1)①について

誤答の原因として、「2-×」の組合せの誤答が多いことから、資料は正しく選択しているが、用水路づくりを国や県に願い出た年と水が那須野が原全体にいきわたった年を年表から正しく読み取れなかったことが考えられる。

- ④(1)について

誤答の原因として、「エ」の誤答が多いことから、Aの建物から見たBの建物の方向を解答してしまったことが考えられる。また、誤答の内容が多岐にわたったことから、方位の理解と活用が不十分であることも考えられる。

- ④(2)について

誤答の原因として、「ウ」及び「エ」の誤答が多かったことから、縮尺の理解と活用が不十分であることが考えられる。

- ④(3)について

誤答の原因として、「交番」の誤答が多かったことや誤答の内容が多岐にわたったことから、児童の多くが学習した際には記憶していたが、その後、この知識を使う機会がなかったために、あいまいになったり、忘れられてしまったりしたことが考えられる。

- ⑤(1)について

誤答の原因として、「ウ」の誤答が多いことから、青森県の土地の断面図を読み取る際に、地形図に示されている凡例から、A-Bに沿って丁寧に読み取らずに安易に判断してしまったことが考えられる。

- 5(4)について

誤答の原因として、aの誤答が誤答全体の63.6%を占めており、誤答の内容が多岐にわたったことから、県全体の地形の特徴を総合的にとらえる機会が少なかったことが考えられる。

- 7(2)について

誤答の原因として、無答が多いことや「品種開発」「品種栽培」という誤答があったことから、稲作の学習をしたときには「品種改良」という言葉やその意味を理解していたが、時間の経過とともに忘れたということが考えられる。また、「新稲」「かけあわせ」などの誤答例から、問題文の記述から言葉を考え解答したものと考えられる。

- 8(1)について

誤答の原因として、「ウ」の誤答が多いことから、問題で問われていることについて、資料をいろいろな角度から読み取る力が不足していることが考えられる。

- 8(2)について

誤答の原因として、誤答の内容が多岐にわたったことから、複数の資料を読み取り関連させて考えていく力が不足していることが考えられる。

カ 今後の指導について

内容別にみた課題としては、「青森県の地形や産業、特色ある地域の様子」と「我が国の食料生産の様子と国民生活との関連」の学習内容の定着が挙げられる。

今後の「青森県の地形や産業、特色ある地域の様子」の学習指導においては、地図帳や社会科副読本『わたしたちの青森県（小学校版）』を活用しながら、青森県の特徴を示す主な半島や山地、平野、河川等の名称の定着について繰り返し指導することが大切である。

また、今後の「我が国の食料生産の様子と国民生活との関連」の学習指導においては、体験や見学・調査で知った具体的な事実をメモやカードなどにまとめさせたり、その事実から児童一人一人に気付いたことや考えたことを発表させたりしながら、社会的事象の意味や目的を考えさせる場を意図的に授業の中に設定することが大切である。

評価の観点別にみた課題としては、「観察・資料活用の技能・表現」の能力の向上が挙げられる。その要因として、地図を読み取る基礎的な知識や問題文の内容と資料を関連付けていろいろな角度から考察する力が十分に身に付いていないことが考えられる。

今後の「観察・資料活用の技能・表現」の指導においては、地図を読み取るための基礎的な知識を系統立てて指導するとともに、日常の社会科の授業で地図を活用する機会を多く設け、地図に慣れ親しませることが大切である。また、グラフや年表、図表などの様々な資料の見方や読み取り方を日常の授業で丁寧に指導していくことが大切である。さらに、資料にかかわる基本的な用語については、時間の経過とともにあいまいになったり忘れられたりすることが多いので、繰り返し指導していくことも必要である。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、多様な誤答例があったことから、方位や主な地図記号などの理解、地理的名称や特色ある産業等の社会事象に関する知識や理解の定着が挙げられる。

今後の学習指導においては、これまで以上に地図帳の活用を図るとともに、白地図にまとめ

る等の作業的な活動を工夫し、青森県の地理や自然等に対する理解を深め、知識の定着を図る指導を工夫することが大切である。また、基本的な用語については、様々な場面で繰り返し指導していくことが求められる。

設定通過率との比較からみた課題としては、地図上の地点から見た方角を求めることや正しい方位を選ぶこと、地図から実際の距離を求めること、地図記号の理解などが挙げられる。これは、社会科の学習で地図を使用する際に、方位や縮尺を確かめる機会が少ないことが考えられる。方位・方角、縮尺、地図記号などについては、地図を活用した学習を支える知識である。第3学年及び第4学年の「学校のまわりや市（区、町、村）のようす」などの単元の学習において、観察や調査したことを白地図にまとめながら、方位や地図記号の表す意味や活用の仕方を理解し、作図や読図などの場面でこれらの知識を活用できるようにする必要がある。

今後の学習指導においては、方位や主な地図記号などを理解し、活用できるようにするために、次のような指導の工夫が望まれる。

＜方位や主な地図記号などを理解し、活用できるようにする指導の工夫＞

- 方位：フィールドワークや観察を行う際に、方位磁石などを使って方位を確認させること、地図を読み取る際に方位を意識させることなどの工夫をする。
- 縮尺：自分たちの市の位置を調べる学習などにおいて、地図に掲載された距離を表す目盛りを用いて、2点間の距離を求める方法があることを取り上げ、この方法を用いることができるようにする。
- 地図記号：主なものとして、建物・施設や土地利用に関するもの、その他駅、港、橋などが考えられるが、それらを実際に観察し、地図記号を用いて白地図に表すことや、地図を活用した学習において地図記号を意識させる。
- その他：地図上で方位や等高線を確認させること、地図に掲載されている距離を表す目盛りに着目させること、立体模型を用いることなど、方位や縮尺、土地の高さなどに関する指導を工夫する。



質問紙調査では、「社会の勉強が好きだ」と思っている児童が約63.8%、「社会の授業が分かる」と思っている児童が約69.2%と、いずれも前回並みであり、十分な割合とは言えない。

今後の学習指導においては、児童の興味・関心を喚起するとともに、多様な学習活動を取り入れ、児童が主体的に学習問題を追求、解決し、成就感を味わえる授業を行っていくことが大切である。

また、都道府県の名称と位置については、現行の小学校学習指導要領（平成10年告示）の下では、第6学年までに、「次第に我が国の都道府県の構成について分かるようにすること」とされているが、新しい小学校学習指導要領（平成20年3月告示、平成21年4月より移行措置、平成23年4月より全面実施）では、第3学年及び第4学年で「我が国における自分たちの県（都、

道、府)の地理的位置」や「47都道府県の名称と位置」を指導することとされている。

こうしたことから、次のような指導を通して、都道府県の名称と位置の理解を確実に身に付け活用できるようにする指導の工夫が望まれる。

＜都道府県の名称と位置を確実に身に付け活用できるようにする指導の工夫＞

○社会科の学習では

地域の生産や販売、農業や水産業、工業の盛んな地域や運輸の働き、我が国の地形や気候の概要などの学習において、そこで登場する都道府県の名称と位置を児童自ら地図帳を活用して日本地図で確認したり、白地図に整理したりするなどの活動を繰り返し行う。

なお、6学年の歴史学習においても、同様の扱いが必要である。

○社会科の学習以外では

日常的に地図帳で各都道府県の名称と位置を確認する習慣を身に付けさせる。

○その他

都道府県を表す地図を教室に常に掲示しその活用を図るなど、教室環境を工夫した継続的指導に努める。



キ まとめ

内容別では、「地域の人々の健康を守るための諸活動」、「地域の人々の生活や地域の発展に尽くした先人の働き」等の定着がおおむね良好である。一方、「青森県の地形や産業、特色ある地域の様子」、「我が国の食料生産の様子と国民生活との関連」の定着に不十分な点が認められる。また、評価の観点別では、「観察・資料活用の技能・表現」の能力に不十分な点が認められる。

今後は、教師が自らの指導を振り返り、「教えること」と「考えさせること」を指導計画に明確に位置付け、継続して学習活動を展開していくことが求められる。そのためには、問題解決的な学習過程のもとに、児童が主体となった学習を進めるようにするとともに、地図や統計資料等の読み取りについては、学年に応じて系統立てた丁寧な指導をすることが大切である。また、学習のまとめの段階では、調べたことを発表するにとどまらず、調べたことをもとに社会的事象の意味等について考えを出し合う場を必ず設けることが必要である。さらに、学習した基本的な内容の定着を図るため、折に触れ、繰り返し指導することが大切である。